

“Enamorada” ライナーノーツ

1. ベサメ・ムーチョ

美しい南国の海の音で始まり、古いラテンスタンダードのこの曲をボサノバに仕上げている。このCDにおいてのこの曲の魅力は、豊かな弦楽器とウエキ弦太氏の美しいギターソロだと言える。この曲の最後は、モレル氏によって加えられたフルートと太田氏の旋律的なメロディーによって構成されており、古いラテンスタンダードを大変美しく優雅に仕上げている。

2. サポール・ア・ミ

豊かなコード、温かいフリューゲルホルンのソロ、そして太田氏の甘く天使のような歌声で始まる。この新しい感覚のサポール・ア・ミは、確実にあなたの心を捕える事だろう。この曲では、モレル氏による、ビル・エヴァンスの影響を受けた美しいアレンジ技術をはっきりと聴く事ができる。

3. アルマ・コン・アルマ

モレル氏のアレンジによる美しいラテンのボレロは、まさにこの曲のタイトルの通りである。魂（アルマ）と魂というタイトル、そして太田氏の美しい歌声は、この曲のメッセージの真髄を感じる事のできる世界へと誘ってくれる。ニ長調に移調する部分のピアノソロでは、ビル・エヴァンスがピアノを通して語っているのを感じる事ができる。この曲の重厚なコーラスによって、全体を通して“アルマ・コン・アルマ”の天国のような美しさを感じる事ができる。

4. ソン・アル・ソン

ソン・アル・ソンは、サルサクラブのアレンジとなっている。20世紀半ばにキューバで作曲された現代的なこの曲はまさにサルサクラブのダンスフロア向けである。ホーンの素晴らしいソロは、ジェフ・ルパート氏、ホセ・ロドリゲス氏によるものである。太田氏はこのポップにアレンジされた曲に合わせ、力強く歌い上げている。

5. コモ・フェ

このCD “エナモラーダ” は、全体にラブバラードで構成されているが、その中の一曲。美しいビブラフォンのソロは、モレル氏によるもので、ビル・エバンスの要素を再び盛り込んでいる。この曲もまた20世紀半ばに作曲されている。そして、このような旋律的な曲が表すように、この時期のラテン作曲家達は実にロマンチストであったと言える。

6. デリリオ

このラテンポップバージョンのデリリオでは、太田氏のソフトで深い歌声と共に、扇情的な彼女の別の面を見ることが出来る。再度、モレル氏アレンジの近代的なハーモニー構成は聴く人を虜にする。

7. ラ・プエルタ

非常にロマンチックにアレンジされたこの曲の中で、ジェフ・ルパート氏によるサックスのソロは特筆に値する。太田氏は、失恋の歌であるこの曲を情感たっぷりに歌う。モレル氏のポップスタイルのドラムがこの曲にとってもよく合っている。

8. コンティエゴ・アプレندي

このCD“エナモラーダ”の中で唯一のアップテンポな曲である。ここでもジェフ・ルパート氏の素晴らしいサックスのソロと、モレル氏の確かなジャズの経歴からくるアレンジを感じることが出来る。加えて、太田氏の優雅な歌が対照的で、それがさらにこの曲を魅力的にしている。全般にわたるパーカッションはモレル氏と太田氏によるもので、その華々しさがラテンとジャズの要素が完全な結婚をもたらしている。

9. パラ・シエンプレ

太田氏が天性のボーカリストであり、作曲家である事がわかる1曲。彼女の作曲したこの曲から、日本の有名な歌手、美空ひばりを彷彿とさせる。